はるかな尾瀬

—目　次—

02　特集　尾瀬の玄関口 ようこそ檜枝岐村へ
～檜枝岐村地域おこし協力隊～
05　エッセイ尾瀬好日
山の鼻だより
06　現地情報(番外編)
08　尾瀬ボランティア情報
09　ＴＯＰＩＣＳ
10　尾瀬保護財団からのお知らせ

2016.12　vol.32
(公財)尾瀬保護財団

撮影場所：下ノ大堀川　※関連記事を6ページに記載

▲①：2016年4月30日撮影

▲②：2016年5月12日撮影

▲③：2016年6月6日撮影

▲④：2016年7月14日撮影

▲⑤：2016年8月30日撮影

▲⑥：2016年9月30日撮影

▲⑦：2016年10月10日撮影

特集

尾瀬の玄関口 ようこそ檜枝岐村へ

（檜枝岐村地域おこし協力隊・城 健史）

檜枝岐と私の事

こんにちは、ガイド業で生計を立てる為、昨年の5月に檜枝岐村へ地域おこし協力隊として移住しました。今回、地域おこし協力隊の私と併せて檜枝岐村の魅力もご紹介させていただきます。檜枝岐村は、昔は地理的な要因から周辺地域との交流が少なかったため、個性的な風俗と奥深い文化を持ち合せ、歌舞伎をはじめ様々な要素が一村一集落の小さなコミュニティに凝縮されています。集落からは尾瀬や燧ケ岳、我が裏山、会津駒ヶ岳などの百名山にも気軽に足を運べ、山の恵みをいかし、高冷地ならではの工夫を凝らした村に伝わる山人料理を楽しめる宿が30件以上も林立し、観光地としても恵まれた場所です。この檜枝岐村では現在、私を含め2人が地域おこし協力隊として活動しています。

私が、地域おこし協力隊として檜枝岐村へ移住した大きなきっかけは、日本最大の湿原である釧路湿原を流れる釧路川で一年間カヌーを漕ぎ、ガイドとして過ごした経験があったからです。釧路の自然はとても厳しく、厳冬期の気温はマイナス20℃を下回り、水を掻いたパドルは、空気に触れた瞬間に凍りつくほど極寒の地で、その厳しく雄大な自然の中、川を下りながら自分という人間の小ささを実感し、一人の小さな人間として自然が持つ魅力を人に伝え慎ましく生きていければと感じました。そして、もう一つ自分の感性に大きな影響を与えたものは、西日本で過ごした頃に触れた、神楽をはじめとした伝統芸能や田舎の文化などです。人々が何世代にも渡り紡ぎあげて来た歴史と文化の面白さも伝えていきたいと思い、人と自然、歴史と文化が強く感じられる場所で、ガイドとして残りの人生を過ごそうと移住先を探していました。

檜枝岐を下見に訪れた昨年4月、まだ尾瀬には雪が残り、集落のはずれから先へ向かう事は出来ませんでした。名物の裁ちそばを食べ、温泉につかり、早々に退散しようとしたところ、温泉スタッフの方と世間話の中で、地域おこし協力隊を募集しているとの話を伺い、役場を紹介していただきました。実はこの時、檜枝岐で地域おこし協力隊を募集している事は知らず、当初の予定ではガイド業が軌道に乗るまでの間は、ガイド以外の仕事もしながら生計を立て、地道にやろうと考えていました。しかしながら、下見に来た時の印象では、突然現れた他所者に与える仕事や、貸す家は無いだろうといった印象でした。そうした状況で、地域おこし協力隊の話は自分にとって願っても無い話でした。そして、地元に戻り今一度検討し、気が付けば一週間後には檜枝岐の村人になっていました…。

▲ 村で最初に出来た友達と初めて尾瀬ヶ原を目指した時

個人的な悩み事と檜枝岐の文化

檜枝岐に来た当初から常に悩んでいるのが、3年後にどのようにして生活費を捻出し村に留まるかです。ネイチャーガイド等、ガイド業だけで生計を立てる事自体が日本では一部の地域を除いて難しく、檜枝岐もご多分に漏れず難しい場所です。この先、ガイドとして独立していくためには長いスパンで地盤を築いていく必要があり、それまでの間をどう過ごしていくか。スキルがあるのであれば、在宅の仕事なども考えられますが、せっかく移住してきたのだから、その地域の特色のある仕事がしたく、そう考えながら日々、村の文化を学び過ごし見つけた仕事の一つが、山椒魚の漁です。山深い檜枝岐には無数の沢が流れ、名前のついた沢だけでも300近く存在します。その内、漁に適したいくつかの沢で、現在も山椒魚の漁が行われています。檜枝岐の山椒魚の漁は最盛

期には村中の沢で漁が行われ、戦前は中国にも輸出されていました。今となっては一部の宿の方などが自家消費の為に漁をする程度で、全国的に見ても山椒魚の漁が行われている地域は極めて少なく、将来的には途絶えてしまう文化かもしれません。村の漁に適した沢では、漁を行う者達の間で、誰がどの沢で漁を行うかが決まっています。例え誰も漁を行っていない沢があったとしても、それはその沢の持ち主が沢を休ませているだけで、他の村人が勝手に漁を行う事は出来ません。前の持ち主から新しい持ち主へ受け継がれる時は、書面など無く口頭で受け継がれていきます。そして、村に来て2年目の春、その沢の一つを譲り受け山椒魚の漁を始めました。他の人が漁を行うときにも同行させてもらい、いくつかの沢を渡り歩き、村の人間でも目にする機会はもうあまり無いであろう史跡や、山の民であった先人達が目にしてきた景色の一部の中で、尾瀬ガイドと併せ、今年の夏を過ごしてきました。

▲ 山人と一緒に今年最後の山椒魚漁に行った時

隔絶された地に育まれた文化の村

早いもので、この原稿を書いている時点で、短い夏が終わり、自分にとって二度目の冬が間もなくして訪れようとしています。檜枝岐の冬は長く、少し大げさに言ってしまうと、1年の半分は雪に覆われてしまいます。檜枝岐の目抜き通りは会津沼田街道と呼ばれ、会津坂下の気多宮から沼山峠、尾瀬沼、三平下を経て沼田市に至る道です。その昔、夏の間でも行き交う事が容易ではなかったこの道は、冬場は雪に覆われ山奥の秘境は陸の孤島と化した事でしょう。時代が変わった今も毎年、必ず訪れるこの冬をどう乗り切るかは、ガイドとして私の大きな課題でもあります。山に埋め尽くされた村内は平地が極めて少なく、冷涼で夏の間も水は冷たく米は実らず、日本有数の豪雪地帯であるため冬場は屋外での仕事が困難でした。その反面、質の良い木材を手に入れやすい環境で、江戸時代は小羽板の生産で繁盛し、以降も、わっぱ作りなどが冬の間の生業の一つとされてきました。山を削り、山に生きて来た檜枝岐の先人達ですが、明治の地租改正により、生活基盤である山を奪われ、村の木を切る事が容易でなくなり村人達の生活は一変します。その事は当時から近代に至るまで村人達の生活に大きな影響を及ぼしてきました。農山漁区分の農村であれば自由に作物を育てる権利を、漁村であれば自由に魚を採る権利を失った様な状況で、さらに、地租改正後も追い打ちをかけるよう、わっぱの材であるネヅコの払い下げを禁じられ、殆どのわっぱを作っていた村人は、ヘラと杓子作りに流れました。現在でも曲げわっぱは極わずかに生産されていますが、村人が受け継いで来た技術と共に途絶えつつあります。職業選択の余地に乏しく貧しかった当時、生業として伝えられてきたこれらは、生きる為の手段から、現在では伝統文化として認識され、しかし、豊かになった村の生活に必要無いものとなりました。歌舞伎などと比較し、娯楽要素より生活要素が強い文化が、生活の変化に伴い、豊かさと引き換えに失われていく事は、ごく自然な事なのです。村に伝えられてきた生活要素が強い伝統文化は、忘れられかけているものも存在し、この先、人知れず失われていくものもあるのではないかと思います。村の背景に、こうした伝統文化が残されている事は、観光村である檜枝岐を、より個性的で魅力的なものにするために

▲ 観光村檜枝岐の要である歌舞伎は村人の為の娯楽であり神事でした

▲ 長さんとみやまえ食堂にて（筆者は右）
花駒座座長で村の事をはじめ沢山の事を教わりいつも気にかけていただいています

とても大切で、村を訪れた人にそれを伝える事は、村の情景をより感慨深く印象付けてくれると思います。明治の頃の村人は、冬の終わりの穴熊猟に始まり、春蚕を育て山菜を採り、夏は出作りと釣りに夏蚕、秋にはオソを切りクマを捕り、冬にわっぱを作り、山に小屋をかけてヘラや杓子を作り、獣を追いながら遠い春を待つ。他にも色々と、たった一人の人間がこれだけの仕事をこなし生活していました。古き良き時代などという月並みな言い回しとは大きくかけ離れ、特に明治以降、貧しかった頃の先人達の生活に思いを馳せると、何とも言い表しがたい懐かしく、あこがれのような満ちた気持ちになります。自分の求めていた何かがこの村にあり、この村に来てよかったと。村の生活要素の強い伝統文化を学び、自身の生業とし尾瀬や村を訪れた人へガイドとして伝え、山の民が残したものの一部だけでも、この村に残し伝えていければと思います。

これからの檜枝岐と私

現在、尾瀬檜枝岐浪漫紀行という任意団体を立ち上げ、伝統文化の保全と継承の一助を担い、人と自然、歴史と文化をテーマに尾瀬や檜枝岐を案内し、その魅力や面白さを人々に伝えたく活動しております。檜枝岐村は、平成29年に村政独立１００周年を控え、例年よりも沢山のイベントが計画されています。普段から少ない人数で沢山のイベントを行っている人口６００人の村は、なお慌しい一年になると思います。同年、夏には道の駅も完成し、村の観光は一層盛り上がってくる事でしょう。さらに、今年の伊勢志摩G7サミットに合わせ、北海道・東北・関東・近畿・中国・四国・九州の7地域から小さな村七村を集め、山梨県の丹波山村で開催された「小さな村g7サミット」の第二回目の開催地に檜枝岐村が選ばれ、この機会により多くの地域の人々に檜枝岐を知っていただければと思います。現在、檜枝岐の産業は観光を主軸とし、その内訳は宿泊業に傾倒しており、ガイド業に関しては極小規模な状態に留まり、産業と呼ぶには程遠い状況です。今後は村で少しでもガイドが仕事として活発になるよう、その一助となれるよう活動していきます。また、檜枝岐村は昔と違い、他所からの人材受け入れに積極的になっています。人口の少ない村なので、一人ひとりが担う役割は大きく、小さな村なので窮屈に感じる事もありますが、ビジョンがあれば楽しい村だと私は実感しております。現在も役場のホームページで地域おこし協力隊として檜枝岐を盛り上げてくれる人材の募集を行っています。私達と一緒に、尾瀬と檜枝岐の魅力を世の中に伝え、村の伝統文化を次の世代に残して行きませんか。

▲ 沼尻平　尾瀬で気にいっている景色の一つ

エッセイ 尾瀬好日

「山の鼻だより」

尾瀬ボランティア 井手 正佳（No.938）

初めて尾瀬を訪れたのは20代前半だった。三平峠を越え、尾瀬沼の向こうにどっかと構える燧ヶ岳を見て尾瀬に来た実感が湧いた。そして白砂峠を越え見晴に着いた時五感が震えた。今まで見た事のない開放感ある広い湿原が眼前にあったからである。この時、異次元の感動が刻み込まれた。以後仲間たちと共に何度も尾瀬を訪れる事になる。この時通り過ぎた山の鼻と後年深いかかわりを持つ事になろうとは思いもしなかった。

退職後、尾瀬保護財団の存在を知り6月に研修を受けた。活動の事始めは沼山峠での入山口啓発活動、そして鳩待峠のアンケート配布・回収だった。その後は物足りなさを感じ支援ボランティア（入山者が集中する繁忙時期に山の鼻ビジターセンターの業務の支援を行う）に応募、採用された。もう4年になる。

ビジターセンターの朝は早い。朝食を済ますと館内の清掃、そして受付業務（朝の観察会に同行する場合もある）に入る。午後遅めに公衆トイレ清掃と展示室などの掃除。夕食を済ますとスライド上映会、これで一日が終わる。

私は主に受付業務に携わっている。入山者は多岐に渡る。ツアーの団体や何十年振り、初来訪に至仏登山など。問合せが比較的多いのは、尾瀬ヶ原の花の様子やどこに行けば見られるか、また花そのものについての質問もある。日帰り組にはせいぜい牛首かその先の下ノ大堀川までを勧めている。登山者には非常に滑りやすい蛇紋岩の存在を強調。これはかつての私の経験からである。展示室で1番人気はツキノワグマのはく製だろう。多くの人が一緒に写真を撮っている。女性に人気なのはキツネやテンなどの毛皮。何度も撫でていたので「お持ち帰りはご遠慮下さい」と声を掛けたら彼女たちの笑い声が弾けた。子供たちはスタンプ押しに夢中。動物の足跡など10種以上を次々に押していく。親たちの出発催促も耳に入らない様だ。植物写真入りの地図が人気だ。プリントアウトした最新情報紙と共に次々と手に取り、しばらく見入ってから協力金の50円を入れてくれる。ありがたい事である。午後受付に来たカップルが「尾瀬沼まで何分ですか?」と聞いてきた。「5～6時間かかりますよ」と答えたら驚いていた。すぐ近くにあると思っていたらしい。またある時は外国人ファミリーが訪れ、ここが気に入ったので宿泊したいと言ってきた。シーズン中で無理だろうなと思ったが幸いにも山小屋が空いていた。人の流れが途切れるとちょっと外の空気を吸いに出る。玄関前はテント場になっており、ここにも様々な人が訪れる。高校生の集団で賑やかな時もあり、数張りで寂しい時もある。小さな子連れのファミリーやカップルの姿もある。そして翌朝各々の目的地に散っていく。時間がなく行き先で困っている人には研究見本園を勧めている。尾瀬ヶ原に咲く花々の多くはここで見られるからだ。池塘もあり、ヒツジグサやオゼコウホネも咲く。ここは朝の観察会の教室でもある。その日の担当者は花々の説明だけでなく、時には尾瀬の成り立ちや拠水林の事など幅広い話題を提供してくれる。花に疎い私がヒオウギアヤメとカキツバタの見分け方を学んだのもこの場である。

▲ 山の鼻ビジターセンターで受付業務をする井手さん

夜のスライド上映会は宿泊者やテント泊の人たちの楽しみのひとつでもあろう。尾瀬とは?、ゴミ対策、動植物紹介、トイレの浄化槽など毎回共通項目はあるものの、そこに視点を変え味付けするのが発表者の腕の見せ所である。巡回中に見つけた動物の素顔や植物、そして風景写真などを織り交ぜていく。私は後方でカウンターを握りしめ、人数確認をしながら見守っている。

山好きの延長が私と尾瀬を結びつけた。支援ボランティアの間も清掃登山と称し、田代山・帝釈山、至仏山に出かけた。会津駒ヶ岳は残雪で活動は断念したがいい思い出になっている。職員の方々に助けられこれまでやってこられたがこれからも宜しくと申し上げたい。

▲ 自主ボランティアでゴミ拾いをした時の写真（筆者は左から2番目）

現地情報

番外編

～ブログで振り返る平成28年シーズン～

はじめに

早いもので、尾瀬の平成28年シーズンもあっという間に過ぎ去っていきました。尾瀬の季節の移り変わりはめまぐるしく、5月下旬頃に残雪がなくなると、一斉に植物が芽吹き、花を咲かせ、実を付け、9月下旬頃には枯れてしまいます。10月にはいつ降雪があってもおかしくない気候となり、10月いっぱいで山小屋は冬支度、尾瀬は長い冬に閉ざされます。尾瀬とは次の春までしばしのお別れ。しかし、だからこそ春になると尾瀬への恋しさが一層高まるのだと思います。

季節の移ろい

表紙の写真は、ビジターセンターが発信しているブログ「尾瀬だより」で今年の10月10日に掲載したものです。山の鼻ビジターセンター職員が下ノ大堀川付近の至仏山を望めるビュースポットから撮影した季節の移り変わりの様子です。

①枚目はまだ開山前の4月30日の写真です。雪があるように見えますが、例年と比べると非常に少なく、長年尾瀬に携わってきた山小屋のご主人たちも、声をそろえて驚いていました。

②枚目は5月12日の写真です。例年、ミズバショウは5月終わりから6月初めに見頃を迎えますが、今年はこの時期がピークでした。

③枚目は6月6日の写真です。ミズバショウを見に1年でもっとも多くの入山者が訪れる時期ですが、残念ながらミズバショウの白い苞はほとんど無くなっていました。

④枚目は7月14日の写真です。湿原が夏らしく青々としている様子が窺えます。今年はニッコウキスゲも例年より早く、この日には多くが咲き終わった後でした。

⑤枚目は8月30日の写真です。まだ日射しの強い残暑の時期ですが、徐々に秋への衣替えが始まっているのが見てとれます。

⑥枚目は9月30日の写真です。湿原の草紅葉は見頃を迎えていますが、至仏山など山の木々はまだ紅葉していません。

⑦枚目の写真は10月10日の写真です。草紅葉と共に至仏山の山肌が紅葉している景観を楽しめます。

今年は全体的に花期がずれるなど特異な年と言われましたが、こうして継続的に観察していると、今年だからこその楽しみがあったと感じます。そこで、今号では現地のビジターセンターが発信しているブログ「尾瀬だより」で今シーズン振り返ります。

5月16日（開所式の様子）

～山の鼻ビジターセンターより～

山の鼻ビジターセンターでは開所式を迎え、いよいよ尾瀬のシーズンの始まりです。今年はすでに雪はなく、全体的に植物の芽吹きが早く、ミズバショウに至っては約1ヶ月も早くすでに見頃を迎えるという特異の年でした。積雪のない開所式は初めてのことでした。

5月21日（尾瀬沼VC開館!!）

～尾瀬沼ビジターセンターより～

尾瀬沼ビジターセンターの開所。雪はすっかり溶け、釜ッ堀湿原のミズバショウはすでに見頃を迎えていました。尾瀬沼ビジターセンターの壁には今年も「イワツバメ」たちの姿が見えました。

6月10日（尾瀬ヶ原の様子）

～山の鼻ビジターセンターより～

例年であれば、まだミズバショウを見ることができる時期ですが、尾瀬ヶ原ではワタスゲが見頃でした。また、7月中旬から8月に見られるオゼコウホネも開花が早く、逆さ燧の池塘で確認でき、ミツガシワはピークこそ既に過ぎましたが尾瀬ヶ原の各所でまだ点々と見つけることが出来ました。例年では、これら3つの花を同時期に見かけることは少ないですが、今年は早い時期に同時に見ることができる珍しい年でした。

6月25日（燧ケ岳での出会い）

～尾瀬沼ビジターセンターより～

昨日（6月24日）、燧ケ岳で出会った尾瀬の人気者、オコジョ。登山道の岩の間から顔を出し、まだ幼いようで、こちらに興味津々。本当に小さな、手のひらサイズのオコジョたちが次々顔を出し、6匹ほど確認することができました。

今シーズン、ビジターセンターに寄せられたオコジョの目撃件数は山の鼻で157件、尾瀬沼で98件で、両センターとも例年より多く目撃がありました。

7月11日（大江湿原の様子）

～尾瀬沼ビジターセンターより～

ニッコウキスゲも例年より1～2週間ほど早く見頃を迎え、この日は平日にもかかわらず、たくさんのお客様が訪れました。今年見頃を逃してしまった方は、来年はぜひ、ブログで見頃をチェックしてお越しください。

7月19日（ツキノワグマについて）
～山の鼻ビジターセンターより～

今年は例年に比べ、7月にツキノワグマの目撃情報が多い年でした。

例年、尾瀬でクマの目撃情報が最も多い月は、クマの餌であるミズバショウの実が熟し、クマが木道近くまで食べに現れる8月ですが、今年は実の熟しが早かったことが、7月の目撃増加につながったと推測されます。

シーズン終わってみると、山の鼻と尾瀬沼ビジターセンターに寄せられたクマの目撃情報は109件（昨年は71件）、うち7月と8月に寄せられたものが74件、そのほとんどが鳩待峠から山ノ鼻間であり、特にテンマ沢湿原付近でした。

尾瀬はもともとクマの生息地です。私たちがクマの生息地を訪れているということを忘れず行動しましょう。

8月22日（台風9号の影響について）
～山の鼻ビジターセンターより～

台風9号の影響で山の鼻ビジターセンター周辺でも雨が降り、特に午後からは風も強くなりました。

今年は多くの台風が日本列島に上陸しました。尾瀬付近に上陸した台風は9号に始まり、10号（8月30日）、13号（9月8日）、16号（9月21日）の計4回です。幸いに、尾瀬では大きな被害はありませんでしたが、天候不順が続くといった影響がありました。

9月4日（朝露と秋の尾瀬沼）
～尾瀬沼ビジターセンターより～

220日が過ぎて、尾瀬の秋が日に日に深まってゆきます。朝夕の冷え込みもやや強くなってきており、最近の尾瀬沼は朝霧が出てくることが多くなって来ました。

9月17日（研究見本園の様子）
～山の鼻ビジターセンターより～

3連休初日ということもあり、尾瀬ヶ原、至仏山ともに多くのお客様が歩かれていました。

尾瀬は花の時期を終え、紅葉に向かっている最中ですが、研究見本園では春の花がまるで見頃かのように沢山咲いていました。通常は5月中旬に見頃を迎えるリュウキンカです。一輪や二輪なら狂い咲きしていることはこの時期でも珍しくないですが、かなりの数でここまで咲くともう狂い咲きと呼んでいいのか分からなくなります。

9月30日（初霜）
～山の鼻ビジターセンターより～

9月、暖かい日が続いていましたが、今日山ノ鼻では初霜が観測されました。霜が降りると、冬の気配を感じます。光を浴びるときらきらと輝き美しいですが、木道が大変滑りやすくなります。

山ノ鼻の初霜は昨年が10月10日、一昨年が9月21日、一昨昨年が9月17日と、今年は早くも遅くもないといったような状況でした。今年は春先から季節が早く、この先どうなるかと心配しましたが、無事に冬を迎えることができそうです。

10月14日（冬の足音が聞こえる尾瀬沼）
～尾瀬沼ビジターセンターより～

大江湿原の三本カラマツも紅葉し始める中、徐々に寒さが厳しくなってきました。足元を見ると霜や霜柱が見られました。よく見ると、石や木道が凍っています…。

また、秋が深まるにつれて生き物たちの痕跡を見かけることも増えてきました。小さくかわいらしい足跡の正体はおそらく「ホンドキツネ」。湿原から木道を歩いたのか、足跡がはっきりと残っています。

ブログを見ていただいた皆様、ビジターセンターに立ち寄っていただいた皆様、半年間ありがとうございました。
また来年お会いするのを楽しみにしております。**山の鼻ビジターセンター・尾瀬沼ビジターセンター　スタッフ一同**

10月30日（平成28年シーズン終了）
～山の鼻ビジターセンター～

10月31日（平成28年シーズン終了）
～尾瀬沼ビジターセンター～

尾瀬ボランティア情報

このコーナーでは尾瀬ボランティアの活動の様子を紹介します。

●「至仏山東面登山道柵倒し」を実施しました

去る10月22日（土）に、至仏山東面登山道柵倒しを実施しました。

「柵倒し」とは、群馬県から尾瀬保護財団が委託を受けている至仏山保全対策業務の一つで、6月に行われている「柵立て」と対になっている作業です。柵を立てたままにしておくと、雪の重みで柵が流された場合、柵と一緒に土壌も流されてしまうので、植生保護のため重要な作業の一つとなっています。

作業当日、午前6時の時点で鳩待峠駐車場は満車に近い状況でした。今年一番の冷え込みだったこともあり、鳩待峠から山ノ鼻間の木道には霜が降り、滑りやすくなっていたので、足元に注意を払いながら山の鼻へ向かいました。

作業には、尾瀬ボランティア8名、山の鼻ビジターセンター職員2名、群馬県1名、尾瀬保護財団事務局1名の計12名が参加し、東面登山道の脇に設置された踏み込み防止柵を撤去しました。

幸いにも天気に恵まれ、作業時間も予定よりだいぶ早く終わることができました。

私は、前週の10月15日（土）にも別の作業で至仏山に来ておりましたが、人の列が途切れず、なかなか作業が進みませんでしたが、そのときと比べると利用者数が少なく感じられました。

柵倒し終了後、作業後の状況確認をするため、東面登山道を下り、山の鼻まで戻りました。

途中ですれ違う利用者に、踏み出し防止柵を撤去したことと、我々は作業のため東面登山道を下っているが、当該行為は原則として禁止されていることをアナウンスしながら下山しました。

ビジターセンター到着後、今日の作業を振り返り、気がついた点について意見交換を行いました。

今年は過去にない少雪だったので、去年実施した柵倒しの方法について正確な検証が出来ませんでした。いただいた意見と来年の柵の状況を踏まえ、今後の作業について検討していきたいと思いますので、引き続きご協力をお願いいたします。

▲ 至仏山に出発！

▲ 柵倒し作業中

●ぐんま環境学校「エコカレッジ」としてフィールドワークが開催されました

群馬県が実施している「ぐんま環境学校（エコカレッジ）」のカリキュラムのひとつとして、9月15日（木）～16日（金）に尾瀬でのフィールドワークが行われました。尾瀬の貴重な自然に触れ、保護の大切さを学んでもらうこのフィールドワークには、例年、財団がお手伝いをしていますが、今年は尾瀬ボランティア講座（尾瀬ボランティアの登録に必要な研修）と同様の内容で実施し、受講者のうち希望する方には財団が尾瀬ボランティアとして登録できるようにしました。登録に必要なカリキュラムを盛り込んだため、日帰りで実施していたこれまでのフィールドワークとは異なり1泊2日の日程となりましたが、尾瀬に強い関心のある方々20人の参加がありました。

鳩待峠に集合した参加者が最初に目指したのは山ノ鼻です。山の鼻ビジターセンター職員の説明により公衆トイレのバックヤードを見学し、合併処理浄化槽で発生した汚泥は乾燥させたのちヘリコプターにより搬出されていることを知り、感心していたようです。昼食後、山ノ鼻から竜宮までの間を尾瀬認定ガイドとともに散策し、ガイドツアーならではの自然解説をしていただきながら、本物の尾瀬に触れることができました。

夜にはビジターセンターでスライドレクチャーを聴いた後、交流会でビジターセンター職員との顔の見える関係づくりに努めました。

2日目は、尾瀬ボランティアとして知っておかなくてはならない清掃活動や入山口啓発について、先輩ボランティアでもあるガイドから教えてもらい、実践するという内容で実習を行いました。関係者の努力により今ではごみはほとんど落ちていないので、宝探しのような清掃活動です。入山口ではハイカー役の受講者にマットで靴の泥落としの指導を緊張しながらも実演していました。

▲ ガイドの説明に聴き入る参加者のみなさん

▲ 火ばさみを手に清掃活動中

最後に、尾瀬ボランティアとしても活躍されている2人を含めて3人の尾瀬認定ガイドのご協力により、質の高いフィールドワークとなりました。この場を借りてお礼を申し上げます。

○尾瀬ボランティア登録更新について

尾瀬ボランティアの登録期間が平成29年3月31日に終了しますので、今年度内に登録更新を行います。詳細は後日、尾瀬ボランティアあて別途通知いたします。

トピックス TOPICS

○外国人入山者啓発動画を作成しました

2016年の訪日外国人旅行者数は10月30日までに累計2005万人となり、初めて2000万人に達しました。尾瀬国立公園でも外国人利用者は増加傾向にあり、尾瀬のルールを知らずに植物を摘み取ってしまうという事例も見られています。そこで尾瀬保護財団では、昨年度作成したチラシ『尾瀬のマナー（多言語版）』に引き続き、外国人向け動画を作成し、YouTubeで配信を開始しました。同じ内容のDVDも制作し、必要なときにはビジターセンターでも視聴できるようにしています。

内容は、特に気をつけて欲しい『①湿原踏み込み禁止、②動植物の移動禁止、③ごみ持ち帰り、④公衆トイレを適切に使う』の4点にポイントを絞り、使用言語に関わらず、映像を観るだけでルールがわかるようにしました。また、尾瀬への道中にスマートフォンで観られるよう、手短なものにしています。配信中の動画はYouTubeサイトから『尾瀬のマナー』で検索すると確認できます。

▲ Youtubeで動画を配信しています

外国人入山者へは、尾瀬の魅力だけでなく適正な利用についても事前にしっかりと伝えていく必要があります。関係者の皆様からのそれぞれの発信に加えて、尾瀬保護財団としても公園全体の管理者である環境省としっかり連携して、有効な発信をしていきたいと考えています。

○第21回NHK「わたしの尾瀬」フォトコンテストの入賞作品が決定！

四季折々、様々な表情を見せてくれる尾瀬。このコンテストは、魅力に満ちた尾瀬を広く紹介し、貴重な尾瀬の自然を見直し、自然保護への関心を高める目的で、福島・前橋・新潟のNHK放送局と尾瀬保護財団の共催で開催しています。

平成28年6月1日から10月31日までの募集期間に全国各地から786点に及ぶ作品が寄せられました。どの作品も魅力あふれる尾瀬を表現したものばかりで、非常に悩む審査となりましたが、厳正なる審査の結果、50点の入賞作品が決定しました。

入賞作品は、高崎展（高崎シティギャラリー）から始まり、群馬・福島・新潟・東京など、各地で写真展を開催し披露します。写真展の開催情報についてはNHK前橋放送局のホームページをご覧下さい。

▲ 風景の部 金賞「天上の草紅葉」星 義廣氏（新潟県魚沼市）

寄付のお願い

尾瀬保護財団では広く寄付をお願いしております。

当財団は、尾瀬国立公園において、利用者に対し自然への理解を深めるための解説活動や、適正な利用に関する普及啓発を実施するとともに、各種の環境保全対策や施設の管理運営等を行ない、尾瀬の優れた自然環境の保全に寄与する活動を続けております。

◆個人住民税の寄付金控除の対象に尾瀬保護財団が指定されました。

個人住民税の寄付金税制の拡充により、各都道府県・市区町村が条例で指定した法人に対する寄付が、住民税の控除対象となるようになりました。尾瀬保護財団は下記の県・市・町から指定を受けています。（財団への寄付を行った翌年１月１日にこれらの県・市・町にお住まいの個人が対象となります。）

福島県、群馬県にお住まいの寄付者 ： 個人県民税

福島県富岡町、群馬県前橋市、群馬県高崎市、群馬県桐生市にお住まいの方 ： 個人県民税と個人市民税・町民税

◆また、尾瀬保護財団は「公益財団法人」に認定されており、当財団への寄付は所得税・法人税の優遇措置を受けることができます。

※なお、所得税、住民税控除の対象となる方には、領収書の送付時にご案内資料等をお送りします。

◆企業・団体の皆様とより良いパートナーシップを築けるよう、特別協賛寄付、協賛寄付の制度があります。詳細は財団事務局（群馬県庁 15 階・027-220-4431）にお問い合わせください。

■寄付につきましては、財団事務局にご来訪いただくか、財団にご連絡の上、下記口座にお振込をお願いいたします。

福島県	東邦銀行県庁支店	普通	1078095
	福島銀行本店営業部	普通	0590088
	大東銀行福島支店	普通	1287138
群馬県	群馬銀行県庁支店	普通	0515428
	東和銀行本店営業部	普通	0975531

新潟県	第四銀行県庁支店	普通	1182791
	北越銀行県庁支店	普通	0199366
	大光銀行新潟支店	普通	0837334

特別協賛寄付者のご紹介

※寄付日順、敬称略

2016 年 9 月 30 日寄付

アサヒビール㈱群馬支社　これまで継続してご支援をいただいていた「うまい！を明日へ！」プロジェクトによるご寄付は平成26年度で終了となりましたが、今後も当財団への支援を続けて行きたいというアサヒビール群馬支社様のご厚意により、平成27年度の100万円に引き続き、特別協賛寄付として平成28年度も90万円のご寄付をいただきました。（通算寄付総額　29,957,751円）

寄付者からのメッセージ：アサヒビール(株)群馬支社では、地域との共生や地域貢献を目標に掲げ、2009年春から、全国活動の一環として群馬県内での売上の一部を尾瀬保護財団様へ寄付させていただいてまいりました。今後は群馬支社独自の取り組みとしての寄付継続を含め、県民の皆様とともに環境保全を進めていきたいと考えています。群馬県の子供たちの未来のために、お役立ていただけたら幸いです。

2016 年 9 月 30 日寄付

糸井商事株式会社　当財団の設立の趣旨と活動内容に賛同いただき、100万円のご寄付をいただきました。今後もご支援をいただく予定です。（通算寄付総額　1,000,000円）

寄付者からのメッセージ：糸井商事は昭和21年創業、今年で70周年を迎えました。「顧客と時代のニーズを追い求め続けます。」と「会社の繁栄、社員の幸福、地域社会への貢献を三位一体で推し進めます。」を経営理念に掲げ、地域にとって存在価値のあり続ける企業を目指しています。社長が球団代表を兼ねている群馬ダイヤモンドペガサスの活動と合わせながら、尾瀬の自然環境保護の応援をさせて頂きます。

2016 年 8 月 31 日寄付

株式会社エコ計画　環境・食・貢献をテーマに事業を展開している企業として、「豊かで美しい尾瀬の自然を後世にまで伝える」という当財団の趣旨に賛同いただき、社会貢献事業の一環として100万円のご寄付をいただきました。（通算寄付総額　1,000,000円）

寄付者からのメッセージ：エコ計画は、1970年創業の総合リサイクル企業で「環境・食・貢献」をテーマに事業を展開。群馬県では、1981年に事業を開始し、古民家を移築した自家源泉を備える２つの直営旅館に加え、高崎市倉渕町には、フォレストック認定取得の社有林（約1,000ha）を保有、森林整備を通し、自然環境保護に取組んでいます。尾瀬は、日本の自然保護の原点でもあり、貴財団の趣旨に賛同、寄付をさせて頂きました。今後も地域社会との共生、発展に貢献して参ります。

2016 年 6 月 16 日寄付

株式会社福島銀行　平成24年11月に発売された「ふくぎんエコ定期『みんなの尾瀬』」の平成28年3月末現在残高の0.01%に相当する、1,048万円余のご寄付をいただきました。（通算寄付総額　37,265,336円）また、昨年度に引き続き街頭募金活動を実施いただき、8万円余りをご寄付いただきました。（募金総額239,986円）

寄付者からのメッセージ：福島銀行は、中期経営計画「ふくぎん本気（マジ）宣言」の基本方針の中で、社会貢献の取組強化を掲げております。「ふくぎんエコ定期『みんなの尾瀬』」では、お預け入れ頂いた同預金の年度末残高の0.01%相当額を尾瀬保護財団へ寄付させて頂いており、趣旨にご賛同頂いた多数のお客様より永年ご支持を頂いております。かけがえのない尾瀬の自然を守るため、福島銀行はお客様と共に、これからも積極的に保護活動に取組んで参ります。

2016 年 4 月 7 日寄付

共和工業株式会社　当財団の設立の趣旨と活動内容に賛同していただき、尾瀬の保全に役立てて欲しいと、ご寄付をいただきました。同社からのご寄付は、今回で8回目となります。（通算寄付総額　1,400,000円）

寄付者からのメッセージ：共和は太陽光発電事業など自然保護を支援してまいります。

2016年3月31日寄付

株式会社 明治 ㈱明治様の群馬工場で使用される水の水源でもある、尾瀬の自然環境を後世まで守り、次代に繋げていくことで、社会そして子どもたちの未来に役立てていただきたいとの想いで、30万円のご寄付をいただきました。今回は3年にわたるご支援の3年目となります。（通算寄付総額　900,000円）
寄付者からのメッセージ：㈱明治は、自らの事業が豊かな自然の恵みの上に成り立っていることを認識し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。その一環として、尾瀬の貴重な自然環境が守られるための保全活動の一助になる事を期待し、寄付させていただきました。今回の寄付金が有効に活用され、尾瀬の美しい自然環境が未来へ引き継がれていく事を願い、支援を継続してまいります。

2015年11月24日寄付

株式会社セーブオン 平成27年5月19日～6月30日および9月1日～13日の間、群馬、新潟、福島県内のセーブオン全店舗において、尾瀬環境保全募金を実施していただき、その募金額をご寄付いただきました。（通算寄付総額　6,751,550円）
寄付者からのメッセージ：㈱セーブオンでは、「尾瀬国立公園」が位置する群馬県・新潟県・福島県の店頭にて募金を実施し、多くのお客様に寄付をお寄せいただきました。ご協力頂いたすべてのお客様に深く感謝いたします。今後も、尾瀬の貴重な自然環境を後世まで末永く守り続けるための活動を応援してまいります。

2015年9月8日寄付

水上高原ホテル２００（水上高原リゾート株式会社） 水上より坤六峠を越えて尾瀬に入るツアーを同社が経営されているホテル（水上高原ホテル２００）で実施されており、その収益の一部として30万円のご寄付をいただきました。同社からのご寄付は、今回で４回目となります。（通算寄付総額　1,140,000円）
寄付者からのメッセージ：環境保全と共に尾瀬の雄大な自然と楽しさ・魅力を伝えて参ります。

尾瀬紀行

尾瀬紀行（信託ファンド）で収受した信託報酬の一部として総額453万円余りをご寄付いただきました。
平成19年より今回が10回目のご寄付となります。　（通算寄付総額　60,376,853円）

2016年8月3日寄付

第四証券株式会社 今年度は5万円余りをご寄付いただきました。（通算寄付総額　1,726,384円）
寄付者からのメッセージ：尾瀬の自然環境を後世まで末永く守り続けるために今回の寄付金が有効に活用されることを期待しております。第四証券は第四銀行グループとして、これからも尾瀬の自然環境保護を支援すると共に、 地域社会の発展に貢献してまいります。

2016年8月1日寄付

ＤＩＡＭアセットマネジメント株式会社 今年度は226万円余りをご寄付いただきました。（通算寄付総額 30,188,427円）
寄付者からのメッセージ：尾瀬の美しく貴重な自然を後世に受け継ぐために今回の寄付金が有効に活用され、環境保全の一助となることを期待しております。DIAMはこれからも金融の仕組みを通じて、社会に貢献する資産運用会社を目指します。

2016年8月1日寄付

株式会社第四銀行 今年度は30万円余りをご寄付いただきました。（通算寄付総額　6,199,866円）
寄付者からのメッセージ：尾瀬の自然環境を後世まで末永く守り続けるため、今回の寄付金が有効に活用されることを期待しております。第四銀行はこれからも尾瀬の自然環境保護を支援すると共に、地域社会の発展に貢献してまいります。

2016年6月2日寄付

株式会社東邦銀行 今年度は74万円余りをご寄付いただきました。（通算寄付総額　10,551,422円）
寄付者からのメッセージ：尾瀬の自然環境を後世まで末永く守り続けることを目的として、当ファンドの販売・運用を通じて地域社会の発展に貢献するとともに、広く尾瀬の自然を愛する皆様と共に力を尽くしていく所存であります。今後とも積極的にＣＳＲ（企業の社会的責任）を重視して取組んで参ります。

2016年6月21日寄付

株式会社群馬銀行 今年度は116万円余りをご寄付いただきました。(財団設立当初からの寄付を含め、通算寄付総額　29,963,154円)
寄付者からのメッセージ：信託報酬の一部が尾瀬保護財団への寄付となる仕組みの投資信託を取扱っており、多くのお客さまの善意の集大成を寄付させて頂きました。趣旨にご賛同頂き投資信託をご購入頂いた全てのお客さまに深く感謝いたします。

協賛寄付者のご紹介

※寄付日順、敬称略

糸井商事株式会社
2016年9月30日寄付
当財団の設立の趣旨と活動内容に賛同いただき、10万円のご寄付をいただきました。今後もご支援をいただく予定です。（通算寄付総額　100,000円）

株式会社ニチネン
2016年7月29日寄付
株式会社ニチネン様が片品村の尾瀬工場（平成19年４月に設立）で生産し、販売するミネラルウォーター「尾瀬の湧き水」の収益の一部を、尾瀬の自然環境保全のために役立てて欲しいと、ご寄付をいただきました。平成19年度から毎年ご寄付をいただき、今回で10回目となります。（通算寄付総額　1,000,000円）

株式会社読売旅行
2016年4月28日寄付
当財団の設立の趣旨と活動内容に賛同していただき、10万円のご寄付をいただきました。今回が３年わたるご支援の３年目となります。平成29年度からの３年間についても引き続きご支援をいただく予定です。（通算寄付総額　300,000円）

株式会社フレッセイ
2016年4月28日寄付
フレッセイとキリンビバレッジでエコ基金を創設し、フレッセイの各店舗で販売されたキリンビバレッジの対象商品の売り上げ１本につき0.5円（両社で0.25円ずつ負担）をエコ基金に積み立て、その積立金を尾瀬の自然環境保護のため、28万円余りをご寄付いただきました（平成25年9月～平成26年8月分の積立金）。エコ基金からのご支援は６回にわたり、今回が最終回となりました。（通算寄付総額　2,234,276円）

キリンビバレッジ株式会社
2016年4月28日寄付
フレッセイとキリンビバレッジでエコ基金を創設し、フレッセイの各店舗で販売されたキリンビバレッジの対象商品の売り上げ１本につき0.5円（両社で0.25円ずつ負担）をエコ基金に積み立て、その積立金を尾瀬の自然環境保護のため、28万円余りをご寄付いただきました（平成25年9月～平成26年8月分の積立金）。エコ基金からのご支援は６回にわたり、今回が最終回となりました。（通算寄付総額　2,027,539円）

一般財団法人 群馬県警察厚生会
2016年4月11日寄付
当財団の設立の趣旨と活動内容に賛同していただき、尾瀬の美しい自然が後世の人々に引き継がれるよう活動に役立てて欲しいと、ご寄付をいただきました。平成23年度から毎年ご寄付をいただき、今回で６回目となります。（通算寄付総額　600,000円）

株式会社とりせん
2016年2月15日寄付
当財団の自然保護活動に活用してもらいたいとの趣旨で、10万円のご寄付をいただきました（３年にわたるご寄付の３年目）。株式会社とりせん様からは、平成21年に株式会社とりせん創立60周年を記念して、環境保全に寄与するという目的で社員の皆様が募金活動を実施し、その収益をご寄付いただいております。同社からのご寄付は通算で４回目となりました。今後もご支援をいただく予定です。（通算寄付総額　1,358,391円）

はるかな尾瀬
公益財団法人 尾瀬保護財団機関誌
2016.12　平成28年12月15日発行
発行所：公益財団法人 尾瀬保護財団

尾瀬のミニ観察 ㉘

ミツバチを増やすな

サワギキョウの花はマルハナバチ媒花だが、セイヨウミツバチも訪れる。だがミツバチは雄しべ雌しべ（矢印）に触れずに吸蜜し、この花には迷惑な昆虫である。

第2次尾瀬総合学術調査ではサワギキョウの花で、300分間に100匹以上のミツバチが記録された。湿原近くまでミツバチが持ち込まれていたのだろう。1994年からの第3次調査では250分以上観察したがミツバチは来なかった。マルハナバチ媒花の多い尾瀬では花々に悪影響のあるミツバチを侵入させない施策が必要だ。

（フラワーエコロジスト　田中　肇）

イベント情報 ◆◆◆

第21回NHK「わたしの尾瀬」写真展

●前橋展

【開催期間】
平成29年1月13日(金)～18日(水)
午前9時～午後4時
※13日(金)は午後1時から、
18日(水)は正午まで

【会　場】
群馬県庁１階県民ホール
（群馬県前橋市大手町1-1-1）
（TEL：027-223-1111）

●渋谷展

【開催期間】
平成29年4月11日(火)～23日(日)
午前10時～午後6時
※23日(日)は午後4時30分まで

【会　場】
ＮＨＫみんなの広場 ふれあいホール 3Fギャラリー
（東京都渋谷区神南町2-2-1）
（TEL：03-3485-8034）

※予定は変更になる場合があります

『友の会』コーナー

「友の会」は豊かな尾瀬の自然を守る財団の活動を支援してくださる方々の集まりです。

※加入・更新時期は年4回（5月・8月・11月・2月）です

5月1日からの加入・更新をご希望の方は3月31日までに会費の納入をお願いします。

【年会費】

個人	個人会員	1口　2,000円
	家族会員（個人会員と同居の家族）	1口　1,500円
	ユース会員（加入又は更新時に満22歳以下）	1口　1,500円
賛助	賛助会員（団体　企業等）	1口　10,000円
	特別賛助会員（団体　企業等）	1口 100,000円

【特典について】
※友の会に加入された方には、以下の特典を提供させていただいております。
- **友の会会員バッチ進呈、各種資料送付**（初回加入時のみ）
- **財団機関誌**：配付（平成28年度は4回発行予定）
- **宿泊割引**：尾瀬戸倉、檜枝岐村周辺宿泊割引（休日、祝祭日前等の除外日があります。）
- **尾瀬周辺施設利用料割引**：対象施設等の詳細は財団ホームページでご確認ください。

https://www.oze-fnd.or.jp

※特別賛助会員枠を新設しました

●●●• 編集後記 •●●●

私にとっての初めてのシーズンが終わりました。いま思えばあっという間の半年でした。４月に初めて尾瀬へ訪れたとき、すでに雪はほとんどありませんでしたが、例年の同時期の写真を見てあまりの違いに驚きました。この冬、雪はたくさん降るのでしょうか。多すぎず少なすぎず、普通が良いですね。来年、雪に覆われた尾瀬を見ることができると思うと、すでに来春が楽しみで仕方ありません。（佐藤）

〒371-8570 群馬県前橋市大手町1-1-1　TEL.027-220-4431／FAX.027-220-4421
ホームページアドレス https://www.oze-fnd.or.jp
ツイッター https://twitter.com/oze.info　E-mail info@oze-fnd.or.jp

（公財）尾瀬保護財団
スマートフォンサイト
情報配信中
緊急情報
お知らせ
ライブ映像
など
尾瀬の質問も受け付けています
ツイッター
尾瀬情報配信中

本誌は、再生紙と環境にやさしい再生植物油インキを使用しています。